級山河

第36号

令和 5 年 5 月15日 発 行 公益社団法人沼津牧水会

目 次

沼津市制百周年と				
	2		A STATE OF THE STA	
第69回 沼津牧水祭	_			
「短歌大会」	1/		- 10	2
	14	and the second of the second o		Ş
「短歌大会」を報じた 沼津朝日の記事	15			
	IJ	1.56		
第 69 回 沼津牧水祭 「碑 前 祭」	16			
	16			
第35回雛の歌会	17			
「碑前祭」を報じた				
	18			
文 化 講 座	18			
令和4年度事業報告	19			
定款・編集後記	20			
		an 🕴		
		and the second s		
			86.	همر د
والمراجع وا			, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
			G 1	
5 7		and the second s	Agreement of the same of the s	
and the same	orania. D		Lucy - By	
			1	
May 2	O of Surger			3 .
7.569	San			5
			and the same	1000
El Property A	The second second			

沼津市制百周年と

牧水への追憶

沼津 市若山牧水記念館館長 榎な 本も 篁ら 子こ

の開催が実現し、

感慨無量である。



今年は若山牧水生誕百三十八年、没後九十

沼津市制五周年」を祝って詠んでいる。

徴するような「うた」(長詩)を昭和三年に

えとのことであるが、

牧水と沼津との縁を象

沼津市は今年(令和五年)市制百周年をお迎

「沼津市制五周年祝賀の歌」 若山牧水

寄せて返せば 千本浜だよ 緑の波が はや一昔

今日の沼津の繁昌さよ 昔話はいまさておいて

牧水の沼津での生活。

満四十三歳で亡くなっ 各地を経て移り住んだ

宮崎県日向市から、

五年になる。

た牧水にとって、様々な悩み多き人生の最後

千本松原で癒やされた沼津であった。

恐らくこの式典が最後の公の外出であったろ していた。昭和三年七月一日のことである。 牧水も式典に参列し、 今日の祝ひのめでたさよ 繁昌ぶりだよ これ見よ見よと 歌の披露をその目に

に、 沼津市との長きにわたる深いご縁の不思議 牧水の遺族として感謝申し上げたい。

ど、関係者による歌碑への献花献酒のみであ

昨年は三年ぶりに

「碑前祭·芝酒盛

水祭・碑前祭」が、コロナ禍の影響で二年ほ

その歌碑の前で毎年催されてきた「沼津牧

う。

を有する沼津市千本浜公園に建立された。 を経ずして、牧水第一号歌碑として千本松原

牧水の「幾山河」の歌碑は、

牧水没後一年



歌碑除幕式(昭和4年7月21日)

なっていた。 千本浜公園の「幾山河」歌碑は、公私にか

することなく過ごすのが日常であった。 祖母喜志子と同居であったことから、 ず常に身近にあった訳である。 牧水記念館に当時の歌碑除幕式の写真が展示 家のすべてのようであったが、ことさら意識 水は生活の一部であり、牧水と喜志子は若山 志子の関連行事は好むと好まざるにかかわら 第一号歌碑であったことに驚かされた。 水十三回忌の際に、 されている。牧水記念館には昭和十五年の牧 総領の女孫である私にとって、以来牧水喜 私の初めての遠出がこの沼津であり その中にまだ生後八ヶ月の私を見つ 歌碑の建立は昭和四年である。 歌碑前で撮った記念写真 三歳の頃から 祖父牧



若山喜志子 (昭和 30 年夏 信州 崖の湯にて)

理的に離れてしまった。 ざかりたく、また事実、 遠慮もあってか、私自身かえって牧水から遠 あるが、長ずるにつれ、身内であることへの 識して接していたならばと残念に思うことも 様々懐かしく思い出す。今思えばもう少し意 志子の気持ちの表れを随所にみた思いなど なったりなど、祖母のおかしみや牧水への喜 できないで困る」と写真を裏返しにして横に 真があり、「ここに牧水が居るとお行儀悪く が登場した。例えば、部屋に大きな牧水の写 を細かに記憶しているが、会話の端々に牧水 と長い時間を過ごした。 を共にしていた私は、 喜志子は机仕事の明け暮れで、祖母と寝起き 物心つく頃から絶えず人の出入りがあり 小間使いのように祖母 喜志子とのやり取り 結婚などによって物

もに歩む日々も日常となっていった。 で買さながら殊更意識せず、やがて牧水ととて行く思いをいつも覚えた。その感情も子供って味わう感覚」が益々深まり、心に鎮もっって味わう感覚」が益々深まり、心に鎮もっって味わう感覚」ががなった。

片的ではあるが記したい。 以下に、牧水に対して持ち続けた思いを断



若山牧水 13 回忌追善全国社友大会(昭和 15 年 8 月 18 日)

 \Diamond

父若山旅人の愛蔵書の一つに、牧水が購入した大正十四年版の『森の生活』がある。著者はHD・ソローで、一八五〇年代に活躍し、環境保護運動の先駆者として夙に知られる。その『森の生活』は、新潮社大正十四年七月七日発行で「七月二十二日求む、牧水が購入本の扉に記されている。

変興味をひかれた。
変興味をひかれた。

ったのである。 く意気込んでいた矢先、 頃からの自然との関わりの集大成を実践すべ 同一に帰する」の思想は知っていたであろう 本松原に隣接する五百坪の土地を求め、 あった。その牧水が壮年になって、 し、またそれは牧水の中に生来あったもので の一種である。自然と神と人間とは究極的に ソンやソローの「人間は大自然の一 早稲田大学の英文科を出た牧水は、 買わずにはいられなかったで 『森の生活』に出会 沼津の手 種、 エマー 動物

えてくる事実に今更ながら驚いている。の、ロビンソンクルーソーの生活が口癖であり、ロビンソンクルーソーの生活が口癖であり、ロビンソンクルーソーの生活が口癖であり、ロビンソンクルーソーの生活が口癖であ

一冊の書物が時を越えて語るものの大きさったする努力がなければ、失われるばかりでうとする努力がなければ、失われるばかりでいまする努力がなければ、失われるばかりでいまする努力がなければ、失われるばかりであることを心から残念に思うのである。

て、「遺す」の意味を有り難く噛みしめている。今年で三十六年になる牧水記念館を前にし

 \Diamond

られなばいかにしたまふ 牧水君かりにかのわだつみに思はれて言ひよ

あろう。

海幸山幸の故郷日向に生まれた牧水は、自海幸山幸の故郷日向に生まれた牧水は、自郷がドイツ・デュッセルドルフに赴任中のこ郎がドイツ・デュッセルドルフに赴任中のこと。かの地は詩人ハイネの生誕の地であり、と。かの地は詩人ハイネの生誕の地であり、日独文化大ツに紹介したい、との意向で、私共にその生どの名が、との意向で、私共にそのながに紹介したい、との意向で、私共にそのを流の一つとして、日本の歌人若山牧水をドイツに紹介したい、との意向で、私共にその本女性とドイツ人とでなされるとのことであった。

主文についての翻訳はさほどの苦労はないものの問題は歌である。詩歌は「言葉」の文学であり、その表現形式が欧米の定型詩は多くが韻をふみ、短歌は五/七/五/七/七の

所に朗詠によってその歌が生き生きとする 東の心を伝えるにはどうすべきか。例えば冒 で表記し、口ずさめる型にしてはどうか? 字で表記し、口ずさめる型にしてはどうか? 字で表記し、口ずさめる型にしてはどうか? で表記し、口ずさめる型にしてはどうか? であるが、その心が伝わらなければ意味をなさない。 その心を伝えるにはどうすべきか。例えば冒 のネプチューン(海の神)という言葉で表すと

く、問題山積であった。
ニュアンスの伝達の難しさを言えばきりがなンではないのだなぁ」等、民族特有の微妙なは海の神には相違ないが、それはネプチューいう訳者の言に、父旅人は「牧水のわだつみ

芭蕉の「古池や蛙飛び込む水の音」の俳句が、ドイツでは「水の音」が「鳴り響く音」を意味する言葉に訳されている場合が多く、蛙が次々「ポッチャンポッチャン」と飛び込蛙が次々「ポッチャンポッチャン」と飛び込むかるとのこと。ドイツ語の名詞の用法によって単数が複数に翻訳されてしまったのでは、と何かで読んだ。秋の虫の音も外国人の多くと何かで読んだ。秋の虫の音も外国人の多くは騒音ととらえると聞く。

た。

要性を思うのである。
をれぞれの国の歴史、宗教、自然環境、また読み手によって解釈が異なってくるのは当があると言えよう。それ故に翻訳の差異の重然のことだ。しかし人間の根本はそれほど変然のことだ。しかし人間の根本はそれほど変があると言えよう。それ故に翻訳の差異の重要性を思うのである。

のあなたの空遠く」の上田敏、「マザーグース」リズムがあり、哲学的で深遠なる原作の心がりズムがあり、哲学的で深遠なる原作の心がもかりやすく伝えられたのであろうし、「山わかりやすく伝えられたのである、世界的漫画家娘とも不思議なご縁のある、世界的漫画家

究者によることを提案して責を果たした。の歌の最終翻訳はドイツの詩人や日本文学研の歌の最終翻訳はドイツの詩人や日本文学研めの北原白秋など、明治以降の優れた翻訳者にの北原白秋など、明治以降の優れた翻訳者に

して牧水本人に最も聞いてみたいことであっに英訳したであろうか。当時の作業を思い返英文学を学んだ牧水は自分の歌をどのよう

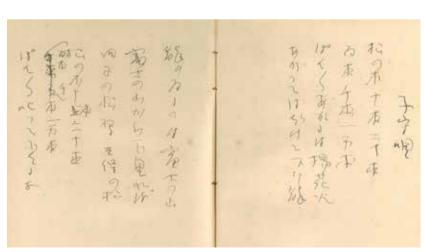
 \Diamond

守唄

子

百本千本一万本 百本千本一万本 おがつてはじけて下り龍 龍のゐるのは富士の山 富士の山から下見れば 田子の松原三保の松 田子の松原三保の松 で本千本一万本

牧水



子守唄の原稿ノート

に、また多くの短歌に残されている。とである。牧水の松原への愛着は、その随想沼津の千本松原と駿河の富士に魅せられたかながが沼津を第二の故郷と親しんだのは偏に牧水が沼津を第二の故郷と親しんだのは偏にないが

慰められていた牧水だが、 津市千本松原の「千本」の由来は斯程に重い ず、上人は一本植える毎にお経を誦しつつ千 実弟増誉上人が潮の害に苦しんでいた人々の 今川の争いで松が伐られた。そこへ東国 採計画を聞き 本の松を植え、松原を蘇らせたのである。 有様に松原を復元させねばと発心され植樹に のためこの地を訪れた比叡山延暦寺乗運 つ 千本松原を日本一の松原だと讃え、 かつてその千本松原が姿を消したことがあ 時は群雄割拠の戦国時代、 しかし浜は石ばかりでなかなか根付か 大正十五年松の伐 武田、 朝夕を 公の |行脚

いのである。豊其処の蔭に住む一私人の たらば日本にはもう斯の松原は見られな 悲しむのである。まつたく此処が伐られ りではない。比類なき自然のこの一つの してこの事を嘆き悲しむ。が、そればか を犠牲にしようといふのであらうか。 まうとする一詩人として、 その美しさを歌ひ讃へて世人と共に楽し 美しさを眺め楽しむ一公人として、)歳月の結晶ともいふべきこの老樹たち 私は無論その松原の蔭に住む一私人と 幾らの銭のために増誉上人以来幾百歳 限りなく嘆き また

0

てて欲しいことを請ひ祈るものである。 眼 Ŕ 嘆きのみならむやである。 前の些事に囚はれず徐に百年の計を建、具眼の士のある事を信ずる。而して 静岡県にも、 県庁にも、 また沼津 市

ている。 増誉上人の心を次に繋ぐことが出来た。 彦明)と共に保護を訴え、結果、 と声をあげ、 牧水は今、その千本山乗運寺に静かに眠 乗運寺先々代住職楳樹上人 松原は守られ ´ (林



乗運寺にある若山牧水の墓所

夢ともうつつともきこゆ 聞きるつつたのしくもあるか松風の今は 牧 水

古るさと みべより見ゆ の赤石山のましろ雪わがゐる春のう 喜志子

比翼の歌碑に刻まれた短歌) 牧水墓所前の牧水・喜志子の

修造而、 るす。「此城、神亀元年、按察使鎮守苻将答す。「此城、神亀元年、按察使鎮守苻将答す文字幽也。四維里界之数里をしかがら、 御時に当れり。 参議東海東山節度使同将軍恵美朝臣朝傷 旅の労をわすれて、 りて疑なき千歳の記念、 道あらたまり、 おほく語伝ふといへども、 軍大野朝臣東人之所置也。 つぼの石ぶみハ、高サ六尺余、横三尺計歟でいるの石がみハ、高サ六尺余、横三尺計歟ではありた。 心を閲す。 ハ老て若木にかはれば、 其跡たしかならぬ事のみを、 十二月朔日」と有。 行脚の一 石は埋て土にかくれ、 むかしよりよみ置る歌枕 徳、 泪も落るばかり也。 時移り、 存命の悦び、 今眼前に古人の 山崩、 天平宝字六年 聖武皇帝の 代変じ 爰ミ Ш 流で、 木

右は俳人松尾芭蕉が 宮城県多賀城趾 の 奥の 壺の碑」をみて千年 細 道 の旅の途

であった事実が示されている。
であった事実が示されている。
であった事実が示されている。
であった事実が示されている。
であった事実が示されている。
の時を経た碑の存在に興奮さめやらず記したの時を経た碑の存在に興奮さめやらず記したの時を経た碑の存在に興奮さめやらず記したの時を経た碑の存在に興奮さめやらず記したの時を経た碑の存在に興奮さめやらず記したの時を経た碑の存在に興奮さめやらず記したの時を経た碑の存在に興奮さめやらず記したの時を経た碑の存在に興奮さめやらず記したの時を経た碑の存在に興奮さめやらず記したの時を経た碑の存在に興奮さめやらず記したの時を経た碑の存在に興奮さめやらず記したの時を経た碑の存在に興奮さめやらず記したの時を経た碑の存在に興奮さめやらず記したの時を経た神の存在に興奮さめやらず記した。

れる。 憲皇太后 若山牧水、 縁が深い沼津に限って言えば、原の白隠禅 詩歌が碑となっていることが多い。文人との かでも千本浜公園には、 太宰治、 古くから和歌に親しんでいた我が国では、 良寛和尚、我入道の芹沢光治良、三津の 港口公園の勝田香月、 池谷観海、 明石海人と数多くの文学碑がみら 井上靖、 建立順に角田竹冷、 増誉上人、昭 本居長世、

寺の芭蕉句碑に対し 芭蕉に私淑していた与謝蕪村は、京都一乗

我も死して碑にほとりせむ枯尾花

「面」のメッセージよりも凝縮された「点」その碑に真向かった時、紙文化(書物)の石に託して建立したのであろう。

ジメッセージが込められていることを知る。

と、『奥の細道』を読みながら改めて考えた。育むよすがの一つにしなければもったいない千年先はともかく、今を生きる我々の心を

 \Diamond

水にも似たるかな。 水にも似たるかな。 天に登り、 天に登り、 また下りては また下りては

― ゲーテ「水の上の霊の歌」(高橋健二訳

切れない生涯を送った。牧水はその名の示す通り、水とは切っても

忘られぬかも (『さびしき樹木』 所収) 幼き日ふるさとの山に睦みたる細渓川の

と象徴的な言葉であろうか。 と象徴的な言葉であろうか。 と象徴的な言葉であろうか。 と象徴的な言葉であろうか。 と象徴的な言葉であろうか。

なとは川の源、即ち水の生まれるところ、水上とは川の源、即ち水の生まれるところ、水は生命の元、水の地球そのものだけに科学者も芸術家も必ずといってよいほど「水」をダ・ヴィンチも最後に目を向けたのは水だっな・ヴィンチも最後に目を向けたのは水だったそうだ。牧水とも縁のあった齋藤茂吉は、たそうだ。牧水とも縁のあった齋藤茂吉は、たそうだ。牧水とも縁のあった齋藤茂吉は、たそうだ。牧水とも縁のあった齋藤茂吉は、か上とは川の源、即ち水の生まれるところ、水上とは川の源、即ち水の生まれるところ、水中でディツに留学中担当教授に研究を覆され、目的を失った失意の中でドナウ川の水源の町ドカウエッシンゲンを訪れている。

茂吉も牧水もそうであるように、人は失意 があるのであろう。 だ吉も牧水もそうであるように、人は失意 があるのであろう。

たのである。
とのである。
を常に求めて旅した牧水でのである。

牧水の没後、妻喜志子は生き方にひとつの哲学を持っていた牧水。

ひたすらに行けよ行けよとゆく水のをし

と詠んでその跡を歩んだ。

輕く ん 哉な そ 唯だ行かんが為めに行かんとするものこ なる故とも知らずして 真個の旅人なれ 行かん哉と叫ぶ 身 は悪運の手より逃れ得ず 心は気球の 常に唯だ 如くに 如何 行 か

であった。

 \Diamond

ボードレー 作・ 永井荷風訳

係者にとっては身近な歴史書ともいえる。 を記録した資料であり、 百六巻をもって終刊。 て短歌誌 百 年 前の 『創作』を創刊。 明治四十三 それは百年という「時 関わってきた牧水関 年 牧水は理想を持 平成三十一年、

0)

柴舟 海外の を愛唱した。 ぶりがうかがえる、 ている。 牧水は中でもカールブッセやボード その創刊号は、 ボードレール等の評論も盛んに取り上げ ツルゲーネフ、ニーチェ、 前田夕暮など錚々たる人々が名を連ね 金子薫園、 文学を志すその頃の若者の意気軒昂 北原白秋、 相馬御風 内容の濃いものであった。 窪田空穂、 太田水穂、 カール シリ 土岐 ブッ 尾上

存在、 が見つかった。 平成十四年、 友人より瀬戸内海の直島に牧水歌碑が かも牧水自筆のボ 林茂樹沼 そのボー !津牧水会理事 ĸ レール K の詩 ル の詩も 長 この墨書 のも

> 立された歌碑の写真を目にしたが、 刻されているとの情報がもたらされ 水歌碑の調査をしていた我々も知らないも 後に娘夫婦が訪れ、 海辺の一本松の元に建 当 一時は牧

配り、酔余の筆」など実に味のある短冊である。 建立者)のご遺族が保管されていた牧水真蹟 其部の長男三宅親連氏 足跡を辿り、 直島へ渡られ、 -ル作・日本永井荷風訳」と裏書きされた 「字 短冊に出会うことが出来た。「仏国ボード 林氏は探求心抑え難く、 その折の案内役だった神官三宅 大正十年直島を訪れた牧水の (元直島町長で歌碑 0



直島にある牧水歌碑(左から林理事長、 時代からの友人 河野健氏、河野氏の義兄片岡健夫氏) (平成 14年 10月 11日)



気球の如くにかろく ゆかむがためにゆくものこそ なんの故とも知らずして 身は悪運の手より逃れえず たゞゆかむかなくくと叫 まことの旅人なれ Š 心は

目にする事が出来る。有難いことである。 生人の三宅晃子氏)のお陰で、誠に珍しく貴 大人の三宅晃子氏)のお陰で、誠に珍しく貴 大人の三宅鬼子氏)のお陰で、誠に珍しく貴

その感動を広く伝えたいとの林氏の意を汲く



牧水の短冊を寄贈する三宅晃子氏 (平成17年11月20日)

香貫山の牧水歌碑前での記念撮影 (左から榎本篁子館長、片岡健夫氏、 三宅晃子氏、元直島町助役浜口勝氏)

木は生きている。天候によって香りも違うし伸び縮みもする。樹齢千年の木は建き持つ。その木を生かし、また何百年かの後の大工に伝える為に、塔と同じ材でのままを次の作り手に渡す。建てる時は本当に苦労しかないしやめようとさえ思す。だけど今精一杯のものを作るという事が我々の仕事。後に今のものが残るのも人が努力して残そうとしてこそ残るのだ。

奈良法輪寺三重塔再建時の

宮大工棟梁西岡常一

一氏談

を今に留めなければの一心で多くの方々が困千本松原に憩い慰められた「牧水の沼津」

難な活動をしてくださった。

の言葉を思うのである。必要で、そのご苦労を顧みる時、いつも冒頭必要で、そのご苦労を顧みる時、いつも冒頭

で三十六年を迎えた。沼津市のご理解も得て成ったその賜が今年

氏は常々語っていた。「木には二つの命があり、ひとつは樹齢、

がつながる不思議を感じている。 北、この千本松原に縁の牧水記念館に設置され、この千本松原に縁の牧水記念館に設置され、この千本松原に縁の牧水記念館に設置され、この千本松原に縁の牧水記念館に設置され、この千本松原に縁の牧水記念館の樹齢四百年の



「千本太郎」で制作した衝立

これからも渉猟し楽しんでいただけたらと心 つにエピソードがあり、その背景を知って、 が山ほど存在する。数々の収蔵品ひとつひと う言葉があるが「牧水記念館」にはその材料 言われぬ喜びを味わうものである。渉猟とい人は何かを知った時また発見した時、得も から願っている。



沼津市若山牧水記念館の展示室(1)

沼津市若山牧水記念館の展示室(2)

十年にもわたって生きた歴史を綴ってこられ とみ子、 た。 三十一年(二〇一九)に百六巻をもって終刊し たことに驚くばかりである。 した短歌誌 明治四十三年(一九一〇)に若山牧水が創刊 創刊以来、 聚一、 『創作』 牧水、喜志子、 篁子と牧水の家筋を中心に百 が、 百九年を経て、 旅人、 富士人、 平成



『創作』終刊記念号



『創作』創刊号

没後二十年の記念の年に、 の終焉を迎える折り目の年の平成三十一年 九十年、喜志子没後五十年、 たした頃より、諸般の事情を鑑み、 (令和元年)九月に『創作』は終刊した。 つの目標であった『創作』百巻刊行を果 また奇しくも平成 旅人・富士人の 牧水没後

記事を三つご紹介する。

数多ある創作の特集の中から、創刊者であ



身辺のことについて牧水が書いている。されている。病が次第に重くなる七、八月の号に牧水の随筆「流るる水」(その九)が掲載「創作」の牧水生前の最終号、昭和三年九月

雄さんが桃を一つ持つて来た。取り尽しの形で、棚もこわれたなり、平常は気をつける者もなかつた。それが今年どうしながら朝に夕にとつてたべた。(中略)『先ながら朝に夕にとつてたべた。(中略)『先ながら朝に夕にとか、るみるみと実をつけた。オヤと思ひながら何やら相済まぬ気もしながら朝に夕にとして来た。取り尽しながら朝に夕により、平常は気をしている。

たと思うてゐた畑の木から取つて来たのである。すると、その翌日、まだありましたよと云つて女中が一つ持つて来た。とにかく今年は桃をばよくたべた。西瓜をもよくたべた。利雄さんが自分で畑に作つたものである。不思議とよくなつて、十幾つとかとれたさうである。(中略)娘たちの主催で折々学芸会といふものが健される。二三日前にもそれが開かれた。先づ二人の姉妹に女中も加はつて大がかりの歌劇があつた。兄はハモニカの吹奏と英語の朗読とをやつた。弟は唱歌をうたうた。責められて父と母とは伊那節と木曽節との合唱をやつた(後略)

病の牧水を思う一家の姿が見えてくる。



りに」として次のように書いている。に妻喜志子は、お別れのことばを「納棺のを「創作」の牧水追悼号(昭和三年十二月号)

でになる途中、舟津で時雨にお逢ひになた年の秋、飛騨から越中の富山にお出をお入れしておきます。

『創作』昭和3年9月号

つた、その時。

心細いよいちゐの笠にかゝる時

雨の

舟津越え

紺の脚絆。 ぉ りませんでしたね。それからお馴染の草 タトラ その時のまゝで、まだ一度もお穿きにな 下さいましたね、なぜかその時私は、涙 私の側へ、足固めをして見せにいらして 灯氏の手を経てお作らせになつた古風 とお唄ひになりながら、 ぐましい思ひをいたしました。今思へば れもしません、裏の畑に菜を摘んでゐた よく仰有つたその時のいちゐ笠を忘れ て置いたあれでございます。それからも 人がないときき、わざわざ裾野の鈴木秋 すまい。それから今年の春、沼津では職 これはいつも一足づゝ御用意なすつ 此の脚絆の出来て来た日は忘 涙を垂れた、と



『創作』若山牧水追悼号

先年京都の清水で御一緒に買つた、この 忘れはいたしません。何よりもお好きな うたひになつて、お静かに悠々と、 く亡びしものはなつかしきかな」でもお 安心なすつて、「傍に秋草の花かたるら みと入れてお枕の側におきます。お盃は 形のいゝふぐべ、それに一つぱいなみな 物を私は念入りに拵へてお上げします。 頂いたのでございます。それから最後に う一つ杖。これはいつぞや樺太の方 行きになつて下さいまし。 のゆくまゝにどこまでも、どこまでもお に」のこれをお唇のそばにおきます。御 あそぶ絵模様の藍深きかもこのさかづき 最後まで御愛用になつた、「青柳に蝙蝠 お心 から

「蝙蝠」の盃

れはや君に捧げ来にしを かたちに添ふかげとし念じうつそ身をわ

うてばひびくいのちのしらべしらべあひ て世にありがたき二人なりしを

若山喜志子

い。朴訥にして滋味のある甘さが、

しかも渋

に例えれば深山の渓流にすむ鯉だ」。

皮の下に隠れていて、

牧水はそういう人。

魚

バナナは妖しき味がするが、栗はそうではな

水は果物で言うなら栗に似ている。

メロン、

たちの講演が次々に進んだ。

太田水穂は

ありがたく思う。 た挽歌である。 右の二首は、妻喜志子が心から牧水に捧げ 誠に幸せな祖父母であったと



北原白秋。当時の歌壇を代表する歌人たちが 田空穂、 岐善麿、 忌記念短歌祭」が開催された。発起人は、土 ると、昭和九年九月、 『創作』昭和九年十月号 太田水穂、 齋藤茂吉、 前田夕暮、 尾山篤二郎、 東京で「若山牧水七周 「短歌祭の記 尾上柴舟、 山本實彦、 窪

相謀つて全歌壇的な短歌祭を催すことに うとするに際し、 しました。 牧水逝いて早くもその七周忌を迎へよ 記念のため我等は弦に

念記忌周七水牧山若

協調會館講堂

『創作』に掲載された「短歌祭」の広告

集め、 壇の流派、 ちが牧水のことを交互に話すという企画。 と発表。 東京・芝の七〇〇人収容の会場は千人 他の講演者を含めて発起人の歌人た 結社を超えた珍しい催しが関心を 歌





以上が詰めかけ、立錐の余地なく超満員。土

岐善麿の司会で時折、朗詠を交えながら歌人

佐佐木信綱は「徳川の末期に民衆歌人が出て、佐佐木信綱は「徳川の末期に民衆歌人が出て、東た民衆歌人の雄であった」と話した。最後また民衆歌人の雄であった」と話した。最後は「閉会の辞」を述べたのは齋藤茂吉だった。生前毀誉褒貶の多かったともいえる牧水に対してのこの短歌会は、新聞紙上でも大きく取してのこの短歌会は、新聞紙上でも大きく取している。

 \bigcirc

靖氏、両氏の牧水との思い出を綴りたい。
「牧水記念館」という題字を揮毫されてい

一高時代伊豆の旅館に宿泊していた川端康成は、階段で一人の老人とすれ違った。なんとなく風格があるので女中に聞くと「あの方が有名な若山牧水先生です」と誇らしげに答えた。「私はずいぶん老人だと思ったのだが牧水の歌は学生仲間に人気があり、川端も牧牧の歌が好きで、「牧水の歌を思い出すことは、一高時代の青春に帰ることだ」と語っていた。

水没後五十年」の記念式での席上、牧水につの先輩でもある井上靖氏は、昭和五十三年「牧私の父若山旅人の沼中 (現沼津東高校) 時代

れ違った話が印象にのこる。沼津時代、狩野川の橋の上で何度か牧水とすいてのエピソードを様々語られたが、中でも

ででは、「死後半世紀を経てもこれほど多くということだ」との言に、父旅人はたいの人に愛される牧水なら、五百年経っても不の人に愛される牧水なら、五百年経っても不また、「死後半世紀を経てもこれほど多く

父は、

七十年の昔、牧水が亡くなる前年、訪ねてきた牧水のファンの一人が「幾山河」の 歌碑建立を願い出た折、目立つことを 好まなかった牧水から玄関先で「とんで もない」と断られて悄然と立ち去った。 その人が牧水死去の翌年それを沼津の千 本松原に建立し、現在(平成八年)二百基 に近い歌碑の第一号となったのだ。

*〈編集部註〉

に展示されている。 は、裾野市民文化センターの「若山牧水展示室」は、裾野市民文化センターの「若山牧水関係資料牧水の弟子であった、裾野の鈴木浚一(秋灯)氏

改めて衷心より感謝申し上げて筆を擱く。のように皆様のおかげを賜っていることに、満四十三歳の若さで亡くなった牧水が、こ

挽歌

の歌あはれかの声 尾上柴舟豊かなる調に乗りて流れ出でしあはれか

との歌は君詠ましたり 尾上柴舟歌に生まれ歌に生きつつ歌に逝きてまこ

れ君を置く 尾上柴舟

浜も見むとおもはず

金子薫園

やまぬ父の目にみき 若山旅人真の美に浸りゆく刻の哀しみをまたたき



「幾山河」歌碑に献花・献酒する榎本篁子館長

第69回 短 津牧水祭 大

四階視聴覚ホール 沿津市立図書館 年前十時三十分



交じり、楽しい雰囲気で催された。 ち着いているためか、 賞された黒瀬珂瀾先生をお迎えして開催され りの針がうたふ』で第二六回若山牧水賞を受 師に「未来短歌会」選者で、第四歌集『ひか は一〇〇首、 が昨年より増えた。講師の話に、 た。新型コロナウイルス感染症も少しずつ落 第六九回 「沼津牧水祭・短歌大会」 参加者は六六人であった。 沼津市外からの参加者 時折笑いも 応募短歌 が、

牧水の短歌を数首紹介された。実際に日向へ 文学館や牧水生家を訪れたときの様子を語り が行われた。 行ってみると、 午前は 「牧水と現代の短歌」と題する講演 黒瀬先生は、 牧水の気持ちがよく理解でき 日向市の牧水記念

るともおっしゃられた。

な講演となった。 いての思い出話などをされて、 説明のみならず、時折、 ば自然と短歌もかわるものです」と結ばれた。 風を気にする必要はなく、 ほうがポエジーではないかと思う。 くことより、目の前にあるものを詠むことの 関係性で変わってくる。僕は、物語を作ってい もと、からっぽなものである。人間は周りとの の「違い」と「共通点」を話された。「人間はもと について取り上げて、 現代歌人の短歌を比較された。また、「酒」の歌 水の短歌と「新型コロナウイルス」についての 較して、「スペイン風邪」について詠まれた牧 先生のお声はよく通り、聞きやすかった。 そして、「牧水の歌」と「現代歌人の歌」を比 牧水と現代歌人の 取り上げた歌人につ くるものが変われ 楽しく有意義 自分の作 短歌

聞き入った。 ついての講評が行われた。 っくりと丁寧に講評されて、 午後は、参加された方の出詠された作品に 先生は一首ずつゆ 参加者は真剣に

る互選賞七首を紹介する。 黒瀬先生選の沼津牧水賞三 一首と出詠者によ

沼津 牧水賞 おき黐の木を伐る りすぎた髪に大泣きせし吾子を夏空に 静岡 市 小山弘子

> 津牧水賞 眼帯をはずしてくれ し看護師の長き睫毛 沼津 市 菅野隆江

にひかりが踊る

沼津牧水賞三席 ミサイルからねぶたに映像切り替わり箸 動き出す真夏の昼餉 海 市 岸

市長賞 リズム取り大縄跳びに入るよう雨だれか 松山 市 園部 淳

わし軒下を出る

市議会議長賞 祖父と来て下刈りをせしこの山に今孫と 和歌山市 松田容典

来て植樹を始む

教育長賞 「ドチラサマ?」妻に言はれ 沼津市 て声も出ず 勝俣徳夫

商工会議所会頭賞 ホームの部屋の時が停つた 帯をはずしてくれ 看護師の長き睫毛 沼津市 菅野隆江

観光協会会長賞 ミサイルからねぶたに映像切り替わり箸 にひかりが踊る 海 市 岸 浩子

動き出す真夏の昼餉

沼

津朝日新聞社賞

沼津市

山田純子

ゃぐ下校の道に 雨 ※傘を持つ子持たぬ子雨の中 何やらはし

サン書店賞 半年を経て 嫁の盛るひと手間 の膳旨かりき流動食の 沼津市 土 屋八代枝

7

ステイホームとコロナに酒

牧水と現代歌人の短歌

日、市立図書館4階 短歌大会が10月2

69回沼津牧水祭

77年、大阪府の生

務めた黒瀬氏は19

講演で黒瀬氏

まれ。大阪大学大学

ロナ」をキーワード

ぶりに例年の形で実 河」歌碑への献酒、 われ、コロナ禍のた 品を講評。また、芝 献花だけにとどめて で千本公園内「幾山 津牧水会役員らだけ 酒盛が同月16日に行 かれ、黒瀬珂瀾氏が たが、今年は3年 に、短歌大会出詠作 を演題に話すととも 牧水と現代と短歌 短歌大会の講師を この2年間は沼 牧水と現代と短歌 うたふ』で第26回若 比牧水賞を受賞し 表の『ひかりの針が 年の第三歌集『連喰 会、読売歌壇の選者 念寺住職。未来短歌 に『空庭』。昨年発 歴があり、他の歌集 ひ人の日記』で受賞 歌集『黒耀宮』、16 を務める。 は富山県の浄土宗願 業などを経て、現在 程を修了。広告製作 院文学研究科修士課 2003年に第一 代歌人の歌とを比べ 水の作品は『みなか て話を進めた。 み』(1913年)、 つわる牧水の歌と現 に、また「酒」にま

で「東京に戻っては から、恋愛にからん から、恋愛にからん 0 年)に収録されたも 『くろ土』(1921

蟄居の状態でいる時 解説。その中のいく の作品を数首挙げて つかを見ると一 一ところ山に夕

もしろい。

ステイホームとコロナという今日的な話題と酒の歌で と現代歌人の作品を比べた黒瀬氏=市立図書館4階で ろい表現」。 あるという「おもし せるごとく」遠くに 山に囲まれた場所で居る」-360度 で自分は「夕日のさ 京の市街をおもひて が喚起した複雑な象 念への切望。脱力的 のポエジー。遠い概 徴性や暗喩。旅を封

第69回沼津牧水祭短歌大会

とする」 思ひて裏より覗かむ をうすき板のごとく 「わが朝夕の生活 一うすき には「コロナ」と比 生」とまとめた。

ステイホーム」コ は ある 思われがちだが、 と言えば旅の歌人と れた2首。 独特の比喩で、牧水板のごとく」は牧水 して直截な表現だと 意外と比喩表現が ほかに「尽くるな 山里に流行性感冒流 足らぬ家かずのこの 行る」 「十あまり二十に

と思ふ」「わがたい かしと思ふ、死人の 雪つみにけり くつの夜に蟇の啼く一なる旅をゆきつつ』 ゆびの動く勿れかし いては紀行文『静か とに張れるしめ縄に この村の様子につ

らにあり汗をかきつ

らけり」ー『ああ無」れているのだそう ごとくわが命の眼ひ 麹をぬすまむとする ペイン風邪がはやっ は、こんな歌も。 ゴーのロマン派の作 る。 情』ピクトル・ユーな」と書き記してい 『みなかみ』から 五三縄が張ってある 「飢ゑて一片の麺」んな村にすら例のス てきて、 として、「聞けばこ の点在する軒々に七 大半はやら

利用しているのはおて、 ち満ちた閉塞感。牧 誰にも会へず死して「迫られる諦念。満 独の病と見つけたりについて、黒瀬氏は 人は「コロナとは孤 が喚起した複雑な象しなく火葬され、自水流『ステイホーム』焼かるる」と、葬式 この頃の牧水の歌|病気で口述筆記の歌 分も誰にも会えない れた現代短歌。全身 コロナ禍で詠ま 方、牧水に対し は、

日のさせるごとく東

な自己否定からの再の形をなでてゐる感 じられた『旅の歌人』のだという思いが詠 1は「コロナ」と比「が恐ろしい、近代で | 白鶴瓶にあふれ出また、『くろ土』 |わめく」 — きれいだ | の清水津の国の銘酒 じウイルスなどがざ 一誰かわたしの喉 が取り上げられた。 だ多くの歌がある 牧水には酒を詠ん 続いて「酒」の歌。 「とろとろと琥珀

22年、六花書林)

から「キャシュオン

もわが母も熟睡(う

き昼すぎ保育所の児

はらふといひて軒ご イン風邪の様子に触 較される当時のスペ 「はやり感冒 会」が描き出され りマスクがなくてぢ で人との接触が妨げ はなく現代の歌。 孤独だつたと思ひた 物流の問題で孤独 つとしてゐた」ー 「四月のわたしは

にわが心にふりそそ一でも触れ、小さな村 - 「利根から妻へ」 消える」ー接触する 液』が染み込んであ 現代の感覚が読み込 ことが大切だという このほかにも「ウ 『手指酒精消毒 黒瀬氏。「牧水は酒 の歌人ではなく、憧一つ」「角瓶をボトル

まず取り上げた牧

が聞ゆ、雨もまばら

ぐ」など。

省的で、どんどん暗 前提がある。 制があるからだとの して、現代短歌に 挙げ、黒瀬氏は、牧 ンライン飲み」など を盛り込んだ作品を ーパーイーツ」「オ さを指摘。牧水は内 ことがあると教えて での詩歌のおもしろ 違い、比較すること 水と今の歌の感覚の 遮断は社会的規 する感覚を大切にし

が、不安を詠んだ歌 い歌のように見える 合の酒の夏のゆふぐ はじめたる一合の二 たい」と黒瀬氏。 かんがへて飲み

まれた。

になる。マスク1枚 はと胸暗うなる」。 この酒のこのうまさ とで「没頭すること 牧水の歌の特徴は酒 のたそがれがたの身を、 は大切なこと」だと に向き合っているこ 年、いりの舎)から。 のあぢきなさ」「た の飲みたくなるころ だ二日我慢してゐし づ」「ほんのりと酒 うにピール瓶かたは 『昼の月』(2021 田村元さんの歌集 して知られるという と言う。 マンで酒飲み歌人と 北海道のサラリー では現代歌人は何 「旧友の一人のや どう詠んだか。

肩寄せ合っている」。

酒とは言っていな

現代の酒の歌は空気

黒瀬氏は

よせてカウンターに の濡れた小銭を掻き

まい)にあらむ

な

ある」ということ。 かも似む飲まで居る。あと一歩」だと黒 れた歌人」と。 かって言うおもしろ 瓶のかはゆさは珠にと言ふ」 さ、酒自体が友達で べし」は、「酒に向 「まさむねの一合 一酒のめばなみだ こす
氷がぴきぴき はビール瓶」であり、 瀬氏。「汗をかくの キープの眠りから起 は「牧水に、

多し然れども酒なし くれている」し、 それもひとりの時に み」に、再び「没頭 いる方がいいという 限れる」は「一人で にしてなにのたのし き控へ目な王のごと ピーを杯にそそぐと 視だと解説した。 対して田村作品は自 牧水がダイレクトに いう微妙な自意識。 ピーを杯に注いだ目 き心地す」は、 酒を詠んでいるのに の前だけが領土だと ふ」は現代的な客観 「氷がぴきぴきと言 よく冷えたホッ ホッ

ップライト』(20 井可菜子さんも酒の 歌を詠む。歌集『ア を詠んでいると分析 意識や社会との関係 田村さんの妻、鯨 1年、書肆侃侃房) り笑顔だと言う。 を相手にする時の作 な」。この笑顔は客 出したるわが笑顔か 「酒を飲む仕事にあ 売のまねごとをして 泥書房)から「水商 がうたふ』(202 いた時」に詠んだ に「ピールかくまづ また『ひかりの針 の発想をポイ捨てし いバイス。また、「歌 てもいい」こと、 あることなどを指摘 わずもがなのことも と、前後の関係で言 付けるのは危ういこ 害と神の言説を結び

555

濡れているから。黒 オン」。「濡れた小銭」 いしと 払うのが「キャシュ の書房。2021年、 なが の歌を。『黒耀宮』 化した、おもしろい に比喩を重ねて戯画 ュウイスキー。比喩 は高級なアイリッシ ついて、「ボウモア ずに溶けてゆく」に んまるの氷逃げられ が効いている。 瀬氏は「ディテール いが、一杯ごとに支 歌」だとした。 の浅きまどろみま 黒瀬氏も自身の酒 また、「ボウモア 。うま い。素材が変われば はそれでいいし、牧代の歌の違い、それ なくなるなどとアド 方がいい、体言止め だと語った。 作風は変わる。 もいいのでは。作風 ていうことがあって えているかの違いも 社会の見方、どう考 いはあるだろうが 感が違う。 してしまうと余韻が は、あまり使わない 素材が変わった」ん わったのではなく、 て)自分は作風が変 たという指摘に対し 瀬氏の作風が変 水の歌に近づけよう 詠草講評では、「 個人の違 無

令和4年12月28日(水)沼津朝日新聞

第 69 沼津牧水 祭

祭・芝 酒 盛

十月十六日(日)午前十 時



田原大三東京牧水会会長 伊藤輝和愛知牧水会事務局長

者のみによる碑前祭が二年つづき、 をお迎えして、 開催となった コロナウイルス感染症の流行により、 開催を待ち焦がれていた大勢の皆さま 開催することとができた。 「碑前祭・芝酒盛」 三年ぶり は、 晴天 関係

> ご参加くださった。 のご臨席をいただき、 美市議会議長をはじめとする市議会議員有志 水を顕彰する会の方々など、 賴重秀一沼津市長、 東京、 奥村篤教育長、 愛知、 遠方からも多数 肥の牧 浅原

語った。 もとで開催できたことについての思いを熱く 碑前祭・芝酒盛」 林茂樹理事長が開会の挨拶で、 が、多くの方々の参加の 三年ぶりに

参会者の拍手喝采を浴びた。 文を代読された。つづいて、 の歌碑へ献花、 理として、ご息女の新美麻里様が 祝辞につづき、欠席された榎本篁子館長の代 に日本舞踊を披露された。その華麗な舞いは 悟法利雄氏朗詠による牧水短歌と詩をバック 来賓を代表しての賴重市長と奥村教育長の 献酒を行い、 花柳寿宗師が大 榎本館長の挨拶 「幾山河

生たちが、温かい拍手の中、 の応募作品の中から特選十首に選ばれた中学 が行われた。沼津市内十九校から一五九○首 髙田紹代さんによる牧水の 次に、「中学生短歌コンクー 表彰され 「沼津を詠んだ ル の表彰式

美市議会議長の乾杯の音頭で、 碑前祭」 ご来賓の方々による鏡開きにつづく浅原和 いよいよ「芝

合唱の美しい歌声が、千本松原に響きわたり

の式典を終えた。

四首の独唱と「牧水のうた」を歌う会の

酒盛」 祭りは佳境に入った。 再会を祝って、あちらこちらで話の花が咲き、 餃子などを肴に、「地酒」を酌み交わしながら、 リジナル弁当と出店してくれた富士山餃子の の開催ということで、参会者は、桃中軒のオ の開始となった。 三年ぶりの 「芝酒盛

吟詠、 歌・牧水の歌」とつづいた。 同での合唱と合奏、みんなで歌おう「日本の ハーモニカクラブ・千本ハーモニカクラブ合 四首の独唱、 再度登場した髙田紹代さんの牧水「酒の歌 ぬまづ観光ボランティアガイド・沼津 岳心流沼津愛吟国風会の詩吟の

手がおきて、 大な太鼓の音が鳴り響き、割れんばかりの 里様による打ち初めから始まった。 による太鼓演奏は、 穏やかで優雅な「ひととき」を楽しまれた。 宗雅師による抹茶がふるまわれ、参会者は、心 最後を締めくくる「裾野五竜太鼓保存会」 久しぶりに野点席が設けられ、 最高の盛り上がりとなった。 浅原市議会議長と新美麻 表千家森田 会場に壮

芝酒盛」 子安夫碑前祭実行委員長の挨拶で 無事に開催できた喜びの中、 はお開きとなった。 再会を願う金 碑前祭

かに開催できたことに、 された皆さまのご協力により、 し上げます。 約五百人の方々にご参加いただいた。 関係者一同厚く御礼 明るくにぎや

第 35 回

雛の歌会

記念館ラウンジ 円後一時三十分



歌会」が沼津市若山牧水記念館で開催された。令和五年三月四日(土)、第三十五回「雛の

明るくなった。
明るくなった。

明るくなった。

明るくなった。

明るくなった。

明るくなった。

参加者は五十七名だった。くださった。応募短歌は七十九首、会場へのあるためか、昨年よりも多くの方が参加してあるコロナウィルス感染症が落ち着きつつ

と題する講演が行われた。
と題する講演が行われた。
と題する講演が行われた。
大森先生の「私の好きな牧水の歌」
でいて紹介するとともに、大森先生の歌集『へついて紹介するとともに、大森先生の歌集『へ

大森先生は、若山牧水の短歌を七首紹介し、大森先生は、若山牧水の短歌を七首紹介したころが好きである。視覚のみならず五感すどころが好きである。視覚のみならず五感すところが好きである。視覚のみならず五感すところが好きである。視覚のみならず五感する、とても魅力的だと思うと語られたことが、つ象深かった。

り、参加者に問いかけたりする場面もあった。は時間をかけて、印象に残った箇所、良い点、に時間をかけて、印象に残った箇所、良い点、でくださった。短歌に詠まれた場所をインタでくださった。短歌に詠まれた場所をインターネットで調べ、その場所の様子を話された。大森先生は一首一首、丁寧講演につづいて、出席者の詠草についての

時間の経過が長い場面を詠むよりは、どこかの人が映像を思い浮かべることができてよい。方がよい。具体的なものに託して詠うと多くを表しているだけになるので、動詞を入れたな語評の中で、「名詞でプツプツ切ると状態

ところが特に印象に残った。 に焦点を絞った方がよい場合がある」という

なるもので、参加者は真剣に聞き入っていた。先生の歌評は、今後の詠草に大いに参考に

最後に、先生の選ばれた十首を紹介する。

掴む無花果 換水のマグロの眠り 許されざる死というものを夢見つつラム スーパーに初物並び夫の手が吾より先に 懸命に鳴く猫の口が吐いてゐる言の葉の る父の征きゆきし海 パレットの青を溶きゆく拡がりに顕ちく わかば色の左右対称の文字ならぶ「非常 なしき人がゐるから たわわなる葡萄が海を渡りゆくそこにか 尻向けて憩へる鴨の立ち上がるたぶんヨ したたりやまず もういない母の病室見上 やうなふゆの白き息 イシヨと気合を入れ の灯しづかにあれよ げれば母に点滴 数又みはる 永久保英敏 髙木友代 森元輝彦 鎌田博文 髙田 北島邦夫 福崎享子

虚無感の特効薬はあります

か?白鷺ひと

居山郁子

子供

日向

刈小田に鳴く

軍服まとう背なにも

モスクワの町ゆく母子に雪降れり

なつかしい顔に再会の喜び

面談」「ルアー投げ

-ル巻く間のΩサ

牧水祭 中学生短歌コンクも33回に

の林茂樹理事長が2 の榎本篁子(えのも 年間の空白を埋める あふれる中で進めら 揃い、再会の喜びが 日、千本浜公園 碑への献花と献酒。 主催する沼津牧水会 からの出席もあるな ぶりに通常の形で行 かのような熱い語り であいさつ。頼重秀 われ、県外の牧水会 市長、奥村篤教育 なつかしい顔が 歌碑前で3年

中に」「言わせない の神様が降りてこず な幸せ僕だけのも 火おこしで火

キラに新芽出て小さ 次の10首が特選とな 590首が寄せられ 短歌コンクール 今年は19校から1

余計なことは言わせ た後、第33回中学生 のプログラムが続い 師による舞踊「牧水 に模本館長の娘で と3年ぶり の作品に会場からは とねだる子供ら 川の音とってとって を白紙に戻す」 眺める翡翠は僕の心 ン紅に染まる夕焼け 暗闇に光る蛍と 「川岸を独り

「たこ焼きの中を留 ・ でにしどこいった私 ・ でにしどこいった私 ・ でにしどこいった私 ・ でにしどこいった私 ・ でのタコは海に舞い降 りてくる初めての りてくる初めての ・ でのが様けそうでは ・ で動く未来の自 ・ とで動く未来の自

令和4年12月29日 沼津朝日新聞

化 講 座

初心者のための短歌講座

 \mathbb{H} 令和4年4月~令和5年2月 第2土曜日 毎 月 午前(全10回)

講 永久保 英 敏 氏

各種行事が3年ぶりに行われる中、沼津牧水祭碑前祭・芝酒経 も。「僰山河」歌碑に献酒する新美さん=干本浜公園で

電が行われて碑前祭 でスタートし、歌や でスタートし、歌や

受賞者への惜しみな

この後、独唱や合

み、食事しながら出 な世、地酒を楽し な中、地酒を楽し

牧水記念館短歌会

H 時 令和4年4月~令和5年2月 毎 第2土曜日 午後(全10回) 月 講 永久保 英 敏 氏





講 道 座

令和4年4月~令和5年3月 毎月第3火曜日 午後(全10回) Н 講 師 成 田 真 洞 氏





令和4年度事業報告

今和4年4月1日~令和5年3月31日

1 総 会

第36回 定時会員総会 令和4年5月10日(火)午後6時~7時10分

2 理 事 会

会 報 第35号 令和4年5月15日発行

館 報 第69号 令和 4 年 9 月 1 日発行 第70号 令和 5 年 3 月15日発行

1 調査研究事業

(1) 若山牧水関係資料の収集

(2) 第72回日向市の「牧水祭」へ祝電(主催:日向市、日向若山牧水顕彰会)

日 時:令和4年9月17日(土)午前9時30分

会 場:宮崎県日向市東郷町坪谷若山牧水生家東側夫婦歌碑前及び 牧水公園[ふるさとの家]

(3) 第66回暮坂峠「牧水まつり」(主催:牧水詩碑保存会)

日 時: 令和4年10月20日(木)午前11時

会 場:群馬県吾妻郡中之条町 暮坂峠

*新型コロナウイルスの感染症拡大防止のため、祭壇の設置のみ行われた。

(4) 第23回「百草園牧水歌碑祭」(主催:東京牧水会)

会 場:東京都日野市百草京王百草園 牧水歌碑前

*新型コロナウイルスの感染症拡大防止のため、中止された。

(5) 第27回若山牧水賞授賞式

(主催:宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎日日新聞社、延岡市、日向市)

日 時:令和5年2月21日(火)午後3時

会 場:授賞式 宮崎市宮崎観光ホテル

(6) 第13回若山牧水顕彰全国大会~群馬県みなかみ大会~へ祝儀

(主催:若山牧水顕彰全国大会群馬県みなかみ大会実行委員会)

日 時: 令和5年3月5日(日)

会 場:猿ヶ京温泉 でんでこ座三国館

(7) 第89回延岡市の「牧水歌碑祭」へ祝電(主催:若山牧水延岡顕彰会)

日 時:令和5年3月12日(日)正午

会 場:延岡市城山公園内牧水歌碑広場

2 第69回沼津牧水祭の運営

(1) 短歌大会

日 時:令和4年10月2日(日)午前10時30分~午後4時30分

会 場:沼津市立図書館 視聴覚ホール

講 師: 黒 瀬 珂 瀾 氏 (「未来短歌会」選者、「読売歌壇」選者、第26 回若山牧水賞受賞者)

応募短歌:100首 参加者:66人

(2) 碑前祭·芝酒盛

日 時:令和4年10月16日(日)午前11時~午後1時45分

会 場:千本浜公園牧水歌碑前

参 加 者:472人

3 文学講演会及び文学講座等の開催

(1) 第35回「雛の歌会」

日 時:令和5年3月4日(土)午後1時30分~4時30分

会 場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ

講師:大森静佳氏(「塔短歌会」編集委員)

応募短歌:79首 参加者:57人

(2) 初心者のための短歌講座

日 時:令和4年4月~令和5年2月 毎月第2土曜日午前10時~12時

会 場:沼津市若山牧水記念館会議室

講師:永久保英敏氏

参 加 者:10回開催 延べ129人

(3) 牧水記念館短歌会

日 時: 令和4年4月~令和5年2月

毎月第2土曜日午後1時30分~3時30分 会 場: 沼津市若山牧水記念館会議室

芸 場 : 沿津甲右山牧水記志昭至 講 師: 永久保 英 敏 氏

画 即· 水入床 央 蝦 氏 参 加 者: 10同開催 延べ70人

(4) 書道講座

日 時:令和4年4月~令和5年2月 毎月第3火曜日午後1時~2時

会 場:沼津市若山牧水記念館会議室

講師:成田真洞氏

参加者:9回開催 述べ74人 · 今和4年度「書道講座」受講者作品展示

期 日:令和5年3月14日(火)~令和5年3月26日(日)

期 日: 令和5年3月14日(火)~令和5年3月26日(日)

会 場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ

入 場 者:124人

(5) 第33回「中学生短歌コンクール」募集・表彰

募集期間: 令和4年5月1日(日)~令和4年7月31日(日)

応募短歌:1,590首(19校1,590人)

入選短歌:特選10首、入選41首

選 者:永久保 英 敏、河 本 尚 子、湯 山 昌 樹、勝 俣 文 子

表 彰:令和4年10月16日(日)「第69回沼津牧水祭・碑前祭」にて

公益社 団法人沼津牧水会定 念款 (抜粋)

この法人は、歌人若山牧水を顕彰し、文学的業績の研究を深め、短詩型文学のこの法人は、主たる事務所を静岡県沼津市千本郷林一九○七番地の一一に置く。この法人は、公益社団法人沼津牧水会と称する。 を図り、 もって、教育文化の振興に寄与することを目的とする。 短詩型文学の普及

第四条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
(1) 歌人若山牧水に関する調査研究
(2) 沼津牧水祭(短歌大会及び碑前祭)の運営
(3) 文学講演会、文学講座等の開催
(4) 文学に関する各種出版物の刊行
(4) 文学に関する各種出版物の刊行
(5) 沼津市若山牧水記念館の管理運営の受託
(6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
第五条 この法人の目的を達成するために必要な事業
第五条 この法人の目的を達成するために必要な事業
第五条 この法人の事業を援助する個人又は団体
(2) 背助会員 この法人の事業を援助する個人又は団体
(3) 名誉会員 この法人の事業を援助する個人又は団体
(3) 名誉会員 この法人の事業を援助する個人又は団体
(4) 文学講演会、文学講座等の開催
(5) 沼津市若山牧水に関する調査研究
(6) その他この法人に次の会員を置く。
(6) その他この法人に次の会員を置く。
(7) 「近点」というにより、次の事業を行う。 第六条前第

前項の会員をもって、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員とする。 認を受けなければならない。ただし、名誉会員に推薦された者は、入会の手続を要この法人の会員になろうとするものは、入会申込書を理事長に提出し、理事会の承 会員は、会員総会において別に定める額を支払う義務を負う。この法人の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、会員になった時及び毎年、 せず、本人の承諾をもって会員となるものとする。

公益社団法人沼津牧水会入会金及び会費規程

第一条 この規程は、 て定めることを目的とする。 公益社団法人沼津牧水会定款第七条に基づき、 入会金及び会費につ

条 定款第七条第一項に規定する入会金は、 次のとおりとする

(2)(1)賛助会員 正会員 三〇、〇〇〇円以上 一〇、〇〇〇円

第三条 (2)(1)定款第七条第一項に規定する会費は、 次のとおりとする

賛助会員 正会員 ○、○○○円以上(年額 五、〇〇〇円 (年額)

事 事長 〈副理事 長浅澤井 浩靖 郎夫治 湯山 河辺龍二郎 安夫

理 理

事監

務 局事 大鈴永田林 島木久保 弘英東 弘子行敏男樹 納谷 飛澤 瑞穂 Ш 悦子

編 集 後 記

0 うあり、 新 型コロナウイルス感染症の流行もやっと収束に向 生活が落ち着いて来たように思われます。 か ()

歩という見事な戦いを見せてくれました。また、日本の野 ドカップ・カタール大会で、日本はドイツ・スペインという ラシックで優勝し、 チームは、今年三月に行われたワールド・ベースボール・ク 優勝経験のある世界屈指の強豪に勝利し、ベスト8へもう一 年十一月から十二月にかけて行われたサッカー・ 日本中を歓喜させてくれました。 ワー

和の訪れを希うのみです。 の人々が傷ついていることに心が痛みます。一日でも早い シアが未だにウクライナから撤退せず、ウクライナの多く ロシアがウクライナに侵攻してから一年余も経ちましたが

0)

松原を守った牧水は、沼津の恩人といってもいいでしょう。 富士山の景観が気に入り、沼津への永住を決めました。千本 られる素晴らしい街です。牧水は駿河湾から見た千本松原と 五周年の記念式典に若山牧水が招待されたとのことです。 沼津市は、 沼 津市は、 駿河湾に面した千本松原があり、富士山を眺 本年七月一日に市制百周年を迎えますが、

沼津市制百周年と牧水への追憶」を掲載しました。牧水へ 孫としての思いが綴られています。 牧水の長男旅人氏のご長女である榎本篁子館長

が集い、 ました。 会」「書道講座」も好評でした。 には大森静佳先生をお迎えし、それぞれ充実した歌会となり 「沼津牧水祭・短歌大会」には黒瀬珂瀾先生を、「雛の歌会」 盛会裡に催すことができました。 「沼津牧水祭 碑前祭・芝酒盛」は、会場に多くの方々 「短歌講座」 「

ていきたいと思っております。 これからも皆さまに楽しんでいただけるイベントを開催 本年度も変わらぬご支援をお願い申し上げます